

V

校内研修活性化研究グループ

「校内研修のさらなる活性化を目指して」

<研究員>

千里第三小学校	首席	三浦 淑子
北山田小学校	教諭	芝 直樹
佐竹台小学校	教諭	山埜 善昭
千里みらい夢学園 桃山台小学校	教諭	星野 克行
第一中学校	教諭	加藤 弘靖
第二中学校	首席	大江 健規
第五中学校	首席	大賀 晃代
豊津西中学校	教諭	小林 重信

<スーパーバイザー>

大阪体育大学	准教授	内藤 久仁子
--------	-----	--------

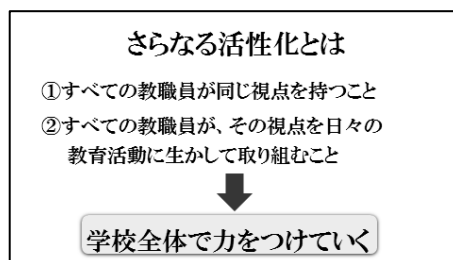
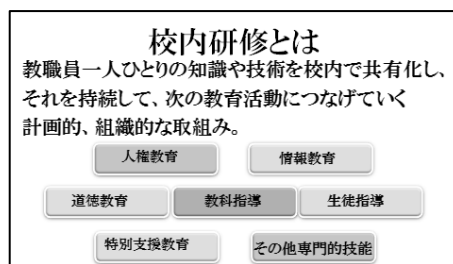
1. はじめに

年間をとおして、校内研修が実施されている学校園は、市内でも多いと思います。校内研修とは、教職員一人ひとりの知識や技術を校内で共有化し、それを持続して次の教育活動につなげていく計画的、意図的な取組です。

校内研修の内容は、情報教育、特別支援教育、人権教育、その他専門的スキルに関する内容等、各校の課題とニーズによって様々です。われわれ校内研修活性化調査研究グループでは、「授業力向上をねらいとした研修」に軸を置き、そのうえで、「校内研修を活性化する」とはどういうことなのかを次のように定義しました。

- ・すべての教職員が同じ視点を持つこと。
- ・すべての教職員が、その視点を日々の教育活動に活かして取り組むこと。

そして、校内研修を活性化させることで、「学校力」を伸ばすことにつながることを重要だと考えました。

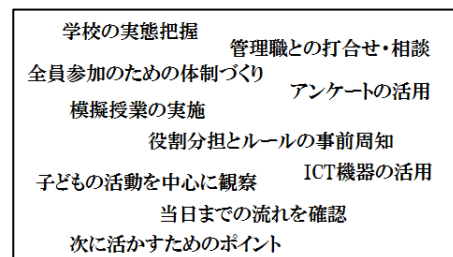
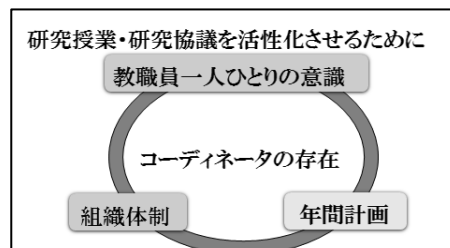


2. 研究テーマと方法

授業に関する研修を活性化するためには、研究授業及び研究協議を具体的に工夫し、改善していく必要があります。そのためには、教職員一人ひとりが授業づくりに対して意識を高めるのはもちろんのこと、研修が組織的かつ計画的に実施されなければなりません。

研修の実施に不可欠なのが、研修を推進していくコーディネータの存在です。コーディネータを担当する教員は、研修を有意義なものにするために、多方面に気を配りながら準備を進めていかなければなりません。

しかし、小学校では、教職員全員でひとつの授業について話し合うことが比較的容易であるのに対して、教科担任制である中学校においてはなかなか困難なのが現状です。中学校において授業研修を活性化させるためには、まずは教科の壁を越えること、そして誰もが「参加してよかった。」と思える研修にすることが大切です。このため、われわれは次の2つのポイントに着目しました。



ポイント(1)授業をとおして、教職員同士が交流の機会を持つ

生徒の実態からテーマを設定し、研究授業や研究協議には全員で参加できる体制を整えること。

ポイント(2)授業を観察する視点を共有すること

授業の観察の中で何を見取るのかを明確にするために、前もって観点と役割分担、さらにルールを決め、全員で共通認識しておくこと。

3. 経過

- (1) 平成28年 6月 7日 (火) 調査研究グループ総会
- (2) 平成28年 7月 1日 (金) 研究テーマと各学校の校内研修の実態
- (3) 平成28年 8月31日 (水) 第一中学校の現状と課題について
- (4) 平成28年 9月12日 (火) 第一中学校の校内研修の活性化に向けた手立ての検討
第五中学校の現状と課題について
- (5) 平成28年10月28日 (金) 第五中学校の校内研修の活性化に向けた手立ての検討
- (6) 平成28年11月25日 (金) 第一中学校の校内研修の報告
第五中学校の校内研修の報告
- (7) 平成28年12月15日 (木) 教育研究報告会に向けて
- (8) 平成29年 1月13日 (金) 教育研究報告会に向けて (最終確認)
- (9) 平成29年 1月25日 (水) 教育研究報告会
- (10) 平成29年 2月23日 (木) 紀要111号の作成

4. 校内研修を活性化させるための具体的な取組

(1) 第一中学校の校内研修

・実態

これまで第一中学校では、人権や生徒指導等様々な分野で、校内研修による教職員のレベルアップを図ってきました。しかし、授業に関する研修については手つかずの状態であり、学校全体で教職員の授業力を向上していく体制が整備されていませんでした。

そのような状況を受け、昨年度より学力向上担当を中心に、各学期に1回の研究授業と研究協議を行う取組を始めましたが、授業者の負担をはじめ、授業の見方や協議のテーマが定まっていないことや、研究協議の結果が普段の授業に生かされる場面が少ないなど多くの課題が浮上し、結果として成功とはいえるものではありませんでした。

・取組

今年度、第一中学校では校内研修における目標を「教職員全体で一步を踏み出す」としました。そして、ポイント(1)「授業をとおして、教職員同士が交流の機会を持つ」ために、**事前に模擬授業を実施することと、研究授業と研究協議に際して全員参加の体制を取ることに**

しました。

次に、ポイント（２）「授業を観察する視点を共有する」ために、「**グループワークにおける課題設定は適切であったか**」「**②グループワークにおける教員の指示・支援は適切であったか**」の２点を、**授業観察の際の視点として明確化**しました。さらに、**前もって観察する班を決めておくなどの教員の役割分担や、授業中はその班の生徒の発言や様子を観察することに徹することをルールとして設定し、全体に周知**しました。

また、「授業を公開してよかった。」と授業者が思えるよう、「**授業をビデオカメラで撮影し、あとから授業者がそれを見て授業を振り返られるようにする**」「**参観者は授業者に労いと感謝のコメントを書いて渡す**」などの手立ても取り入れました。

・成果と課題

このような取組によって、第一中学校の校内研修は、少しずつですが学校全体の取組に変化していきました。模擬授業を行うことや観察の観点を設けることによって、経験年数や教科に関係なく、協議に参加し、意見交流をすることができるようになりました。特に、研究協議の最後の「この授業をとおして、自分の知らない生徒の姿を知ることができた。自分のクラスの生徒を、他の先生方にこんなふう to 育ててもらっていることがわかって良かった。」という学級担任からの言葉は印象的でした。それによって、取り組む教職員の姿勢が変わってきたと思います。

今後は、より学校全体で取り組むことのできる研修になるよう、取り組む教科を道徳や特別活動、総合的な学習の時間等の学年単位で行うものにしたたり、テーマをより教職員や生徒の身近なものに設定したりしていきたいと思ひます。

職員会議資料

平成28年度 第2回校内授業研修について

<今年度の校内授業研修のテーマ>

『グループワーク』

- ・授業の中での課題設定は適切であったか
- ・グループワークにおける教師の指示と支援は適切であったか

日時 : 10月31日(月) 6時間目 1年2組

※この日は5限で生徒を帰し、職員全員で研究授業、研究協議に参加する

授業者 : 国語科 西田祐介先生 授業参観 : 1年2組教室 研究協議 : 図書室

研究授業までの日程

9月26日(月) 企画会議で第2回校内授業研修の提案

10月 3日(月) 職員会議で第2回校内授業研修の提案

10月21日(金) 指導案配布

10月24日(月) 模擬授業・指導案検討(18時~19時 @1年1組)

10月31日(月)のタイムスケジュール

昼休み : 各学年で簡単清掃、終礼

13:30:5限目開始

14:20:5限目終了

1年2組以外すみやかに下校

14:40:6限目開始

15:30:6限目終了

1年2組下校

16:50:研究協議 ①授業者より【5分】

②グループ協議【20分】

③全体交流・まとめ【15分】

④教育センターより【10分】

⑤担任より【5分】

⑥校長より【5分】

⑦アンケート記入【5分】

16:55:研究協議終了

※テーマの内容を検証するためにも、授業を見学される先生方には教室で様々な班を見学するのではなく、1つの班の活動を1時間通して見学していただきたいと思っています。

また、研究協議の際にはそこで見ていただいた班ごとに話し合いを行っていきますので、参観時に見ていただく班を指定させていただきます。

割り振りを下記に載せさせていただきますのでよろしくお願いします。

※授業見学の際は、「生徒の活動やつぶやき」に注目して見ていただき、たくさんメモしておくよう、よろしくお願いします。後の研究協議の中では、ここで見ていただいた生徒の活動をもとに話し合いをしていただきます。

(2) 第五中学校の校内研修

・実態

第五中学校の最大の課題は「学力向上」です。

一昨年度までは、学力向上に向けての学校全体としての取組があまり進んでいませんでした。そのため、昨年度から学力向上委員会を月一回定例開催し、昨年度は委員会を中心に朝読書の導入、そして家庭学習習慣をつけるための取組や授業ルールの見直しなどを行ってきました。

ある程度土台を築いた段階まで到達したため、今年度はいよいよアクティブラーニングを意識した授業改革の取組を本格的に開始しました。

・取組

これまで年に数回、授業づくりに関する校内研修を実施してきましたが、緊急の生徒指導が入ったり、部活動の対外試合があったりなどで、なかなか全員参加が難しかったため、ポイント(1)「授業をとおして、教職員同

士が交流の機会を持つ」ために、管理職と相談の上、**全員参加ができる体制**を整えました。また、生徒たちの実態から、今年度の研究授業のテーマを「**アクティブラーニング(AL)を意識した『学びあい』活動**」に設定しました。

具体的には第五中学校初の取組として、11月22日に当該学級以外の生徒を全員下校させたくて校内研修を実施しました。ポイント(2)「授業を観察する視点を共有する」ために、「**授業に関する質問・感想**」「**学習形態に関して**」「**子どもの様子**」「**その他**」の4つを授業観察の観点として明確化しました。教職員は4つの観点で授業を観察し、気づいたところはその都度4色の付箋に記入し、教室後ろの黒板の模造紙に貼っていきました。

研究協議会では「今日の学びあい活動の改善点は何か。別の活動を入れるならどのようなものが良いか」ということについて、グループに分かれて話し合い、その後に全体で交流しました。

また、研修終了後のアンケートの中に「今日の授業の良かったところは何ですか。」という質問項目を入れ、集約したものを「研修部だより」として後日全体に配布しました。学びの機会を提供してくれた授業者への労いと励みになったのではないかと思います。

さらに、1月6日には外部講師を招き、アクティブラーニングについての研修を持ちました。この研修では、研修後に教職員が、アクティブラーニングを少しでもやってみようかなという気持ちになることを目標に、教職員が日ごろ感じている不安や障壁を出し合い、それらの解決策について、講師の先生の助言をヒントに考えることが



学びあい活動中!



4つの観点で授業観察



たくさんの付箋が貼られた模造紙



1月6日の校内研修

できました。

・成果と課題

研修後のアンケートでは、自分の授業でアクティブラーニングを取り入れてみようと思うという前向きな意見が多く、実際に3学期の授業で取り入れてみたという報告も複数ありました。

第五中学校では、授業改善に関する校内研修の体制を今年度ある程度確立することができたと考えています。この流れを引き継ぎ、来年度以降も全員参加の校内研修を年1回以上実施し、学力向上に向けての取組を、学校という組織としてさらに推進していこうと思います。

5. おわりに

自校の課題に気づき、それに対して何らかの改善を試みようと思うことが、まずは最初の一步になります。しかし、一步といっても、そこに至るまでの道のりは遠く、また、膨大な労力を要します。教職員の意識を変えることや、新たに計画を立案してそれを学校行事に組み込むことは、どちらも決して容易ではありませんが、そのことを教職員が理解し、一步を踏み出すために行動することができれば、それは学校の組織力向上につながっていきます。

今年度は2つの中学校がモデルとなりました。まず本グループで、校内研修が活性化するということの定義として「すべての教職員が同じ視点を持つこと」「すべての教員がその視点を日々の教育活動に生かして取り組む」の2点を決めました。そして、その学校の授業改善に関するこれまでの取組や課題を把握したうえで、どうすれば授業者も参観者も「やってよかった。」と思える研修になるのかを、自身の経験や所属校での実践例をもとに、グループの中で多くの意見を出しあい、協議を重ねました。

第一中学校は、模擬授業の事前実施により、教職員の参画意識がぐっと高まりました。そして、授業者一人が頑張るのではなく、学年及び学校全体で取り組むことの大切さを改めて認識しました。第五中学校は、今回初の全員参加の研究授業と研究協議を実施したことで、大きな一步を踏み出すことができました。

中学校の校内研修の活性化は、単にその中学校だけの成果ではなく、中学校ブロックにおける小中連携の取組にも大きく影響します。今回、この2つの中学校の校内研修が活性化し始めたことは、その中学校ブロック全体にとっても意義のある一步になったといえます。

一方で、初年度にあたる本グループの活動は、当日の研究授業を迎えるまでの体制づくりを整えることが中心となり、2つめの定義である「すべての教員がその視点を日々の教育活動に生かして取り組む」ところまでは踏み込めませんでした。研究協議で出た意見の集約の仕方や共有方法、学期末あるいは年度末の検証方法など、研修を終えた後の進め方については、次年度の活動の中で検証していきたいと考えています。

6. 次年度に向けて

本グループの2年目の調査研究活動は、

- (1) 吹田市内の各小・中学校の校内研修の実態を探る
- (2) 研修終了後の集約や共有の仕方、年度末の検証方法等について研究する

の2点をもとに、研修のスタンダードを作成し、提案したいと思います。